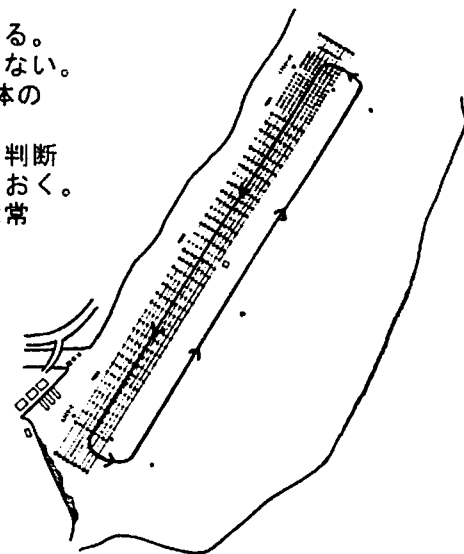


佐鳴湖水域 安全対策マニュアル

2006.3.31制定

1 心得

- ①全てにおいて「安全」を優先する。判断に迷うときは、安全を取る。
- ②救助・監視用モーターボートが無いときは、原則として乗艇はしない。
- ③選手はライフジャケットを着用することがのぞましい(各所属団体のルールに従うこと)。
- ④出艇後に水路状況が変化した場合、練習を切り上げるかどうかの判断は、指導者に任せるだけでなく、選手自らも出来るようにしておく。
- ⑤選手は、練習するときは着替えを必ず用意し、トレーニング後は常に乾いた衣類を身につけられるようにしておく。



2 航行ルール

- ①左回り(右図参照)、スタート側へ向かうときは、コースと赤ブイの間を航行すること。
- ②速い艇はインレーン(1レーン寄り)、遅い艇はアウトレーン(8レーン寄り)を航行すること。
- ③追い抜かれる艇は進路を譲ること。
- ④コース内では休憩のため止まらないこと。

3 確認事項

	指 導 者	選 手
出艇前	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の天気予報(特に雨、風、雷)の確認 ・水路状況(風・波・釣り船・水温・水位等)の確認 ※雷が鳴っているときは出艇しない ・モーターボートの点検(特にエンジンがかかること、ガソリンとオイルが十分であることを確認) ・出艇クルーの確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・天気予報の確認 ・水路状況の確認 ・艇の点検(トップポール・ヒールロープ・ドレンコック・ホールカバー・ネジの緩み) ・十分なアップを行う
乗艇時	<ul style="list-style-type: none"> ・常に乗艇している全ての艇の安全に気を配る ・釣り船や杭、或いは艇同士の衝突が考えられるときは、メガフォンで危険を知らせる ・携行品 メガフォン、双眼鏡、携帯電話 梯子、毛布、懐中電灯 	<ul style="list-style-type: none"> ・艇に乗ったら、まずゲートピンを締める ・航行ルールを守る ・コースから離れすぎない(モーターボートの視界から出ない) ・進行方向の安全に十分留意する ・ぶつかりそうになるなど危険を感じたときは、大声で相手を止める ・ライフジャケットを着用 ・日が暮れて暗くなるときは必ずライトを点灯(出来れば前後に2個) ・正確な動きを制限しない服装とし、ダボダボしたものは避ける ・携行品 帽子、水分、タオル、(スポンジ)
沈した場合	<ul style="list-style-type: none"> ・何よりも人命救助を優先する ・毛布を使い落水した選手の体温低下を防ぐ ・選手の着替えを指示 ・場合によっては温水シャワーを利用 ・選手の体温低下その他異常がある場合は、保護者および所属団体の責任者に連絡するとともに、医師の診断を受けさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフジャケットのガスを充填する ・艇につかまり浮いている(艇から離れない) ・声、ホイッスルで救助を求める ・水温が高く、体力も十分あるときは艇の回復を試みても良い ※沈した艇を発見したときは、モーターボートに知らせるとともに、他の艇が突っ込んで来ないように監視する

4 緊急時の連絡先

なかむらクリニック	053-440-3687
中西病院	053-447-1611
医療センター	053-453-7111
警察	110
消防	119

5 団体	
佐鳴会	ヤマハ発動機
雄図会	
静岡大学	浜松医大
浜松北高校	浜松西高校
浜松湖南高校	オイスカ高校
入野中学	佐鳴台中学